

B2B受発注の8割がいまもFAX・電話だった。 注文書の手入力をなくす3つのステップ

2026年10月13日 / <https://dnd-inc.jp/blog/fax-order-ai-ocr-guide.html>

この資料の要点

- ・コマースロボティクスの調査（2026年9月28日）：大手と中小・中小同士の取引はFAX・電話・メールが多く残る。卸業者調査では81%が「FAX・電話対応に限界」と回答。
- ・受注手入力の課題は「時間がかかる」だけでなく、転記ミス・属人化・退職リスクという3つに広がる。
- ・スモールスタートは「クラウドFAX+AI-OCR」。次のステップでWebフォーム移行、最終的に受発注システムへ一本化する3段階で進める。

受注手入力引き起こす3つの課題

課題1：時間と人件費のコスト

1件の注文書処理に5～15分。1日20件の受注があれば毎日1～3時間が手入力に消えます。人手不足が深刻化するなか、この工数は無視できないコストです。

課題2：転記ミスによるクレームとやり直し

読み間違い・入力漏れ・桁ミスが誤出荷・誤納期確定・在庫二重押さえにつながります。クレーム対応と再出荷の手間は受注処理コストの何倍にもなることがあります。

課題3：担当者の属人化と退職リスク

フォーマットの違いの把握・商品コードの読み解き・イレギュラー対応のノウハウが特定担当者の頭の中だけにある状態。退職・休職・引き継ぎのたびに業務が止まるリスクがあります。

受注業務を確認する7項目

#	確認項目	確認のポイント
1	1日あたりのFAX・メール受注件数	10件超ならAI-OCR化の効果が出やすい
2	手入力にかかる1日の合計時間	30分超なら省人化の余地がある
3	転記ミスによるクレームの頻度	月1件以上あれば再発防止策が必要
4	取引先ごとに注文書フォーマットが異なるか	フォーマットの種類を把握する
5	受注担当者が休んだとき誰が引き継げるか	「自分だけが分かる」状態は危険信号
6	受注データを後から検索・集計できるか	紙やFAX保存だけだと分析ができない
7	受注から出荷指示・請求書発行まで手動か	工程間の転記が多いほど自動化の恩恵大

手入力をなくす3つのステップ

ステップ1：クラウドFAX+AI-OCRで手入力を自動化する

取引先に何も変えてもらわずに始められます。FAXをPDFで受信し、AI-OCRで品番・数量・納期を自動データ化。CSVやAPIで基幹システムへ連携します。まず上位10社の定型フォーマットだけに絞ってスタートするのが現実的です。

ステップ2：取引先にWebフォームで注文してもらう

取引先が直接フォームに入力するため、手入力も転記ミスも発生しません。関係性の強い取引先・量の多い取引先から順に移行依頼し、段階的に広がります。取引先別の商品・単価表示にも対応できます。

ステップ3：受発注システムで在庫・出荷・請求まで一気通貫に

受注確定から出荷指示・請求書発行まで自動連携し、工程間の転記をなくします。既存基幹システムとのCSV連携やAPI連携が選定の基準になります。

自社の受注業務をどう整理するか、ご相談ください。

ご相談・お見積りは無料。現状フローの整理から着手点の選定まで、株式会社DnDがサポートします。

<https://dnd-inc.jp/contact.html>

出典：コマースロボティクス「B2B受発注電子化の実態と事業機会」（PR TIMES, 2026年9月28日）<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000053.000087427.html>／タノム×インフォマート「卸業界のDX実態調査」（PR TIMES, 2026年3月16日）<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000036.000047175.html>